

コンデンサースピーカーは昔から研究されていたスピーカーで、最近にできたものではありません。ただし新しく生れたプラスチックの進歩と共に発展したものですから、大変新しいものであるともいえます。特にその構造を研究の結果大改良をし (Pat. P.) ますますコンデンサー型の良さを発揮する新方式が完成しましたので、ここに Stax ESS 型として発売することになりました。

コンデンサースピーカーは今までのダイナミック型と異り、マグネットが全然ありません。そしてスピーカー全面が鳴るので、特別にバッフル板やキャビネットの類がないのです。そしてスピーカー自身は薄いもので、内部の振動部分は厚さがわずかに数ミクロンのプラスチック膜で羽根のように軽いものでできております。これを電気力で直接駆動するので、クセのない音が出てくるのも不思議ではありません。

従来のスピーカーの振動部分である紙や金属は、指ではじいてみると、独特の固有の音が出てきます。ところが、コンデンサー型の振動膜からは、気になるような固有音はほとんど出てきません。この影響はスピーカーを演奏した時に、耳にはよく判ることなのです。例えば人の声を再生した場合、紙臭くなったり、機械的な金属音になってみたりして、めいりょうでしかも温かみのある肉声は出にくいものです。

このような音質の差は一般に行われている測定法ではハッキリした違いが出てきません。ですからとかく見逃しがちで、ただ何となく音がちがうということがわかるだけで、まだボンヤリした問題のようです。

このような音質の問題に興味をおもちの方は、コンデンサー型スピーカーの研究をしてみるのもおもしろいでしょう。

解説は「ラジオ技術」昭和39年4月号に載っています。増刷もありますから、お申し下さい。(旧 ESS-6 は ESS-3 に、ESS-12 は ESS-6 に変更しましたのでご注意ください)

Stax ESS-3 は、市販のメインアンプのスピーカー出力端子に接続すれば、直ぐ動作するように入力は 16 オームです。

この方式は他社(米、英国)でも採用していますが、我国の Hi-Fi ファンの「そんな簡便法ではなく専用アンプで駆動すれば、さらに良い音質になるはずだ」というご要望にこたえて、弊社が苦心した結果専用アンプにも切換えることができるようにしました。

したがってアンプに強いお方には、色々なアンプの音をためてみることもできるわけです。

Stax では専用アンプとして ESS-3 用に SATM-3

(モノラル用)を製作しております。

ESS-6 は、3 型の 2 倍の発音面積を持った de luxe スピーカーです、少し広いお部屋向きですが、縦長で奥行きがありませんから床の面積はごく少しですみます。この大型スピーカーはコンデンサー型の良さを十二分に発揮しますので、おすすめしたいスピーカーです。専用アンプにはモノラル用の SATM-6 があります。

(カタログG参照)

■ ESS-3 規格

型式：3 ウェイ全音域コンデンサー型
所要アンプ出力：約 15 W
入力インピーダンス：約 16 Ω
再生周波数：40~18,000 c/s
感度：88 dB/m/w
成極電源：AC. 100 V
寸法：97(高)×73(巾)×28 [7] (奥行) cm
重量：26 kg

■ ESS-6 規格

型式：3 ウェイ全音域コンデンサー型
所要アンプ出力：約 30 W
入力インピーダンス：25 k Ω (専用アンプ入力)
再生周波数：30~20,000 c/s
成極電源：AC. 100 V
寸法：180(高)×76(巾)×9 [台 45] (奥行) cm
重量：39 kg